

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和8年度病害虫防除情報第6号

普通期水稻のトビイロウンカ、コブノメイガの飛来及び発生状況は以下のとおりです。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

トビイロウンカ、コブノメイガの飛来及び発生が確認されています。防除対策の徹底を図りましょう。

- 1 作物名 普通期水稻
- 2 病害虫名 トビイロウンカ、コブノメイガ
- 3 飛来状況

1) トビイロウンカ

県内4か所に設置した予察灯では、6月5日に初飛来があり、その後7月1半旬から断続的に飛来が認められ、7月6日に主飛来となる6頭が確認された。6月1半旬から梅雨明けの7月3半旬までの合計は23頭（平年79.8頭）と平年より少ない飛来量であった（図1）。

2) コブノメイガ

佐土原町の試験場内に設置したフェロモントラップでは、6月9日に初誘殺を確認し、その後7月10日から断続的に誘殺が確認された。6月1半旬から梅雨明けの7月3半旬までの累計は4頭（平年3.8頭）と平年並の飛来量であった（図2）。

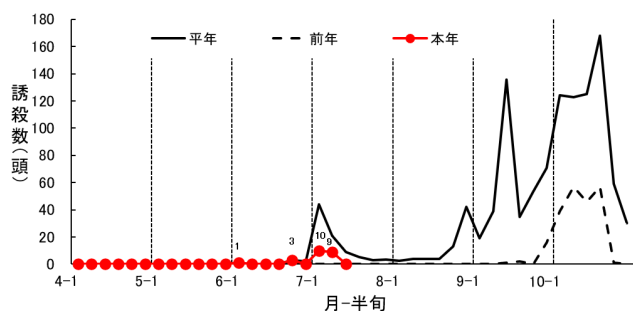


図1 予察灯（4か所）における
トビイロウンカの半旬ごとの誘殺状況

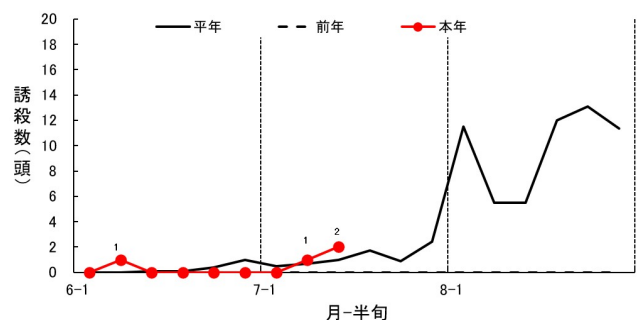


図2 試験場内のフェロモントラップにおける
コブノメイガの半旬ごとの誘殺状況

4 発生状況

1) トビイロウンカ

7月下旬の定点調査（39か所）において、2ほ場でトビイロウンカの幼虫が確認された。発生面積率は5.1%（平年10.8%）で平年並み（図3）、発生程度（1株虫数）は0.01頭（平年0.02頭）で平年並みであった（図4）。

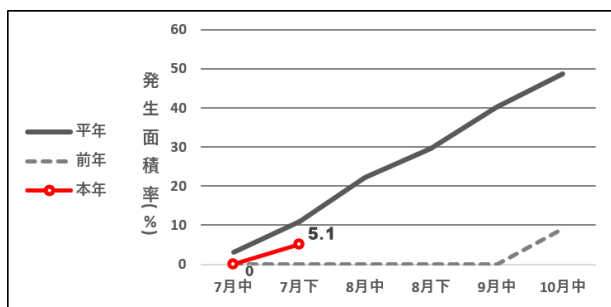


図3 トビイロウンカの発生面積率の推移

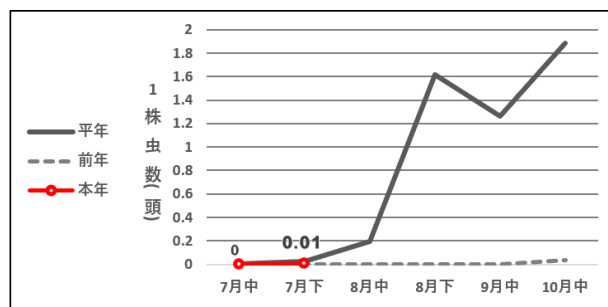


図4 トビイロウンカの発生程度（1株虫数）の推移

2) コブノメイガ

7月下旬の定点調査（39 か所）において、23 ほ場（うち 12 ほ場は微発生）で発生が確認され、発生面積率は 28.2%（平年 18.2%）で平年比やや多（図 5）、発生程度（被害株率）は 2.3%（平年 1.8%）で平年比やや多であった（図 6）。

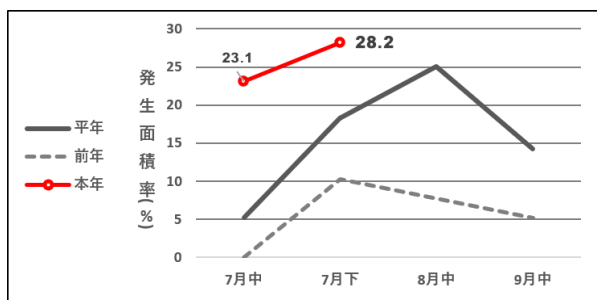


図5 コブノメイガの発生面積率の推移

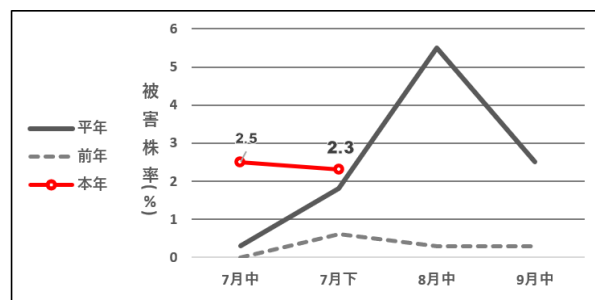


図6 コブノメイガの発生程度（被害株率）の推移

5 防除上の注意

1) トビイロウンカ

- ・薬剤散布の効果は、若齢幼虫期（1～2 齢）が最も高いため、当課 HP に掲載している発生世代予測図（7 月 6 日飛来）を参考に防除時期を検討する。
- ・本種の発生は、移植時期、品種、地域及び育苗箱施用剤処理の違い等により大きく異なるため、ほ場の状況を確認した上で防除対策を講じる。
- ・水稻の株元に生息するため、薬剤散布の際は薬剤が株元にかかるよう丁寧に散布する。

2) コブノメイガ

- ・防除適期は、粒剤では発蛾最盛期、液剤（粉剤）では若齢幼虫期（発蛾最盛期の 1 週間後）である。
- ・当課 HP に掲載している発生世代予測図（7 月 10 日飛来）を参考に防除時期を検討する。

3) 農薬を使用する際は、必ず容器ラベルの登録内容を確認し、周辺の他の作物や環境への影響がないよう、農薬の飛散防止を徹底する。

6 その他

6 月 1 日から 8 月 31 日の 3 か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課
（病虫害防除・肥料検査センター） 清、後藤

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

HP: https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi_byogai/index.html

